

岡村自治会

団体の紹介・活動の目的

岡村自治会における地域的な活動を行うことで、良好な地域社会の進行と維持並びに住民の福祉形成に資することを目的としています。

地域の間関係が希薄化する中、地域で暮らす高齢者や障害者、子どもたちが抱える課題解決の活動を地域と福祉団体・学校が協働で実施することで、性別や年齢、障害の有無等に関係なく、住み慣れた地域で一体的に支え合う社会を実現することを目的とした事業を展開しています。

活動の内容

地元にある小中学校の子どもたちが福祉施設の職員の授業を受けて、地域で暮らす人たちの実情を学んだり、地域の中にある高齢者や障害者の施設へ出かけて交流を図り理解を深めています。11月には、地域の中で道に迷った認知症高齢者や障害者を安全な場所に誘導する声かけ訓練を地域住民と小中学校の子どもたちと一緒にに行いました。また、一人暮らしや高齢夫婦世帯が増加する中、健康食について、地域の中にある施設の栄養士が講師となり、健康料理教室を開催しました。さらに、協働団体同士が情報の共有化を図るため、定例会を毎月1回以上開催しています。

連携・協力している団体など

南組自治会、社会福祉法人そてつ会、社会福祉法人更生会、南九州市頰娃支所、南九州市社会福祉協議会

①



「別府小6年生と地域合同の声かけ訓練」

「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に合わせて、別府小6年生と地域住民が合同で認知症高齢者や障害者が道に迷ったときに安全な場所へ誘導する声かけ訓練を実施しました。

②



「別府中3年生が訓練名を考案」

別府中3年生が「徘徊」の意味について学習。認知症高齢者等が道に迷う行為は、目的があることを学び、新しい訓練名「ハッピーサポートプロジェクト優導模擬訓練」が誕生しました。

③



「別府中3年生と地域合同の声かけ訓練」

別府中3年生と地域住民が合同で、認知症高齢者や障害者が道に迷ったときに安全な場所へ誘導する「ハッピーサポートプロジェクト優導模擬訓練」を実施しました。

④



「管理栄養士を講師に健康料理教室」

地域の中にある施設職員の管理栄養士が講師となり、地域住民と一緒に健康料理教室を開催しました。